

ポートフォリオを活用した 情報教育の評価と「見える化」

大阪府立伯太高等学校 榊井 則子

大阪府立伯太高等学校 村井佑嘉子

はじめに

- * 大阪府立伯太高等学校
- * 普通科総合選択制
- * 基礎学力を重視しながら、
エリアと自由選択科目による学習で進路実現

- * 《自ら学ぶチカラ》を育成する視点から
授業内容と評価についての工夫に取り組んでいる。

意欲をもって学習に取り組む 自信をつけるには？

* 生徒自らが

学習活動の意義づけを行うことが大切

1年生「情報A」で評価の工夫

* 1・2学期は

課題毎のふり返し自由記述で自己評価。

* 3学期は

毎時間ルーブリックをもちいて自己評価。

どのような力をつけるか

- * 「集める」 必要な情報を
- * 「加工する」 意図にそって
- * 「発信する」 かならず発表させよう。

これらの活動をとおして自信をつけよう。

そのためには

生徒みずからが学習活動の意義づけを行うこと

客観性的な自己評価が大切

プロジェクト学習

ICT環境を道具として使い、情報発信の力をつける

- * <大縄跳び必勝法> 1学期 3時間
- * < My Postcard > 1学期 5時間
- * <未来への一歩> 2学期 14時間
- * <ドリトルで学ぶプログラミング：曲の演奏>
★3学期 6時間

学習の捉え返しが自信をつける

* 活動に一生懸命で…

* 学習活動の意義

* 何をめざしてどんなことをしたのか

なにができるようになったのかを理解する

→自信につながる

* 活動後に自分自身による捉え返しが必要

* 学習活動と評価活動を対応させてふり返ることができる
ポートフォリオ評価の導入

活動を評価しているか？

* パソコンの操作方法・スキル

できる・できない・資格試験ではかれるもの・結果のみ
現在のスキルも、やがて陳腐化する。

* どんな活動を評価して育成すべきか？

《自ら学ぶチカラ》を育む活動

学習の過程や活動を評価・育成

自ら新しいことを学んでいけるように

ポートフォリオとは

- * ポートフォリオとは
一人ひとりの学習の過程と成果に関する
情報・資料が、蓄積された集積物
- * ポートフォリオを学習評価にもちる効用
生徒自身が、
学習の進み具合や理解の状態を把握する
「**メタ認知能力**」を身につけることができる
(岐阜聖徳学園大学 加納寛子氏)

ポートフォリオを活用して ルーブリックによる評価

* 学習の過程を評価するのに
ルーブリック (Rubric) を用いる

(関西大学 黒上晴夫氏)

ルーブリックは
縦軸を観点、横軸をレベルとして
観点ごとにレベルが一目でわかる評価規準表

ルーブリック表をもとに自己評価をおこなう。

活動と評価の「見える化」

- * 学習活動の内容が具体的に示される
- * 活動に即した評価のよりどころが具体的に示される。

ルーブリックを作成→自己評価が有効に

- * 学習活動と評価活動を対応させてふり返る
- * 学習者にとって活動の価値づけができる
- * 評価基準の共有で客観性が加味される

実践して

- * 「学習内容と目標」を記入させる (Plan)
- * 実習 (Do)
- * 実習の自己評価 (Check 1)
- * 評価用紙の点検・教師のコメント (Check 2)
- * 次の時間への改善・目標とする (Action)
- * PDCAサイクルをまわすことが理想だが...
(Check 2) → (Action) が課題
- * 一定の成果は有り:なぜ紙をえらんだか

《自ら学ぶチカラ》を育成する視点から

活動の評価に取り組む重要性

- 学習内容 → 学習活動の内容として
目標 → 活動に即した具体的な評価基準として
ブレークダウンして「見える化」

自分で新しいこともやってゆける。
意欲が継続する仕組み

普遍的な課題として

伯太高等学校では、
学校の教育力・教育効果を
生徒一人ひとりに即して「見える化」するツールとして
【HERC】伯太高校教育レーダーチャートの開発も進めています。

活動と評価の「見える化」は、
情報教育を支える鍵である。